

「元気になろうライブ」に向け、合唱を練習する子供たち。笑い声が絶えない



札幌市東区のフリースクール「札幌自由が丘学園」に通う子供たちが、合唱やバンド、ダンスなどの練習に励んでいる。「学園の元気な姿を知ってほしい」と29日には中央区のライブハウスで、昨年秋から準備してきた「音楽で元気になろうライブ」を初めて開く。
(片岡澄江)

学園生の元気届けたい

東区のフリースクール「自由が丘」

19日午後3時半ごろ、学園内の一室に合唱練習の音が響いた。10人が歌うのは、アンジェラ・アキさん作詞・作曲の「手紙〜拝啓十五の君へ」。意見を出し合い、時にはだれかが話す冗談に笑いながら約1時間が過ぎた。

学園は1993年に6人でスタートした。学校に通いづらくなった生徒が在籍し、現在は小中高生の36人。音楽を中心に学園祭などで発表する機会はあるが、今の顔ぶれは特に音楽好きの生徒

が多いことから「学園は学校とは違うもう一つの居場所。伸び伸びとした生徒の姿を知ってほしい」と、普段から練習している約20人で外の舞台に飛び出すことにした。

合唱練習をしていた太田はるみさん(中1)は、「歌が好き。フリースクール同士の秋のステージ発表で、一人で歌い自信がついた」と意欲満々だ。中学入学後、他生徒とのいざこざで学校が怖いと思っただが学園では、新しい友人と大きな声で

歌う。平野花音さん(小4)は「練習? 本当はめっちゃ大変」と話しながら、「お兄さんお姉さん」に囲まれ、合唱にもダンスにも力を入れる。スタッフの高村さとみさん(25)は「フリースクールの子は暗いというイメージを持たれがちですが、よく話すし、よく笑う。明るくなったというより、本来の姿を見せられるようになった、というかなんでしょう」と話す。これまでは、人前

に出たいという声が多かったため、外部で発表会

を開くことはなかったが、今回は「子供たちの背中を押す」(学園)ことにしたという。

ライブではコントの出し物もある。正月返上で脚本を考えた井崎奎佑君(中3)は、中学1年から通い始めてよく笑うようになった。「今度は僕がお客さんに笑ってもらいたい」。近所へのチラシ配りも積極的だった男子(中2)は、バンドで出演する。「友達がいって、ここっていいですよ」本番は、ライブハウス・サウンドクルー(中央区大通東2)で29日午後1時半から。無料。問い合わせは学園☎743・1267へ。

合唱、バンド、ダンス 29日初ライブ